

みかん、されどみかん



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフード・フレンズ北海道事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストと文のルポタージュや札幌や北海道の町案内の本やパン屋さんやお菓子屋さんの案内本を執筆。代表作に『さっぽろ おさんぽ日和』近著に『わくわく おやつ手帖』（どちらも北海道新聞社刊）などがある。最近では絵本制作にも携わり『えりも砂漠が昆布の森に』（文／川嶋康雄／絵本塾出版刊）やシャガール展のための絵本『シャガールおじさんとねこのピピ』（北海道新聞社刊）、えりも町のアイヌ絵本『海からきた少女～ポロエンルムのお話』（えりも町教育委員会）などがある。個人活動では、「スローフード・フレンズ北海道」の事務局長として、農業や漁業およびその環境の大切さや日々食べることの大事を伝えたいと、いろいろなアプローチで取り組んでいる。モットーは四つのS、「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。

この号がでるのは春先ですが、今はまだまだ、冬。そして、冬の果物と言えばやはりみかんですね。この時期、みかんを食べたくなるのは、昔からの習性なのだろうと思う。小さな頃、みかんは大きな箱買いで、物置にいつでもある果物でした。そして、どの友達の家にも同じように箱買いのみかんがあって、遊びにいつでもよくみかんを食べていました。家では妹たちと争うように10個、20個とこたつに丸まって、手のひらが黄色くなるまで食べていました。毎日毎日、よく飽きなかったなあと思議です。あれから何十年もたって、みかんは箱買いしなくなってしまった。近所の店でこまめに買って便利だけど、あの物置をあけると、みかんがいつでもあるという安心感を思い出すと懐かしい。

かんべい 甘平事件

2週間前、東京に用事があって出かけたので、妹家族の家に泊まりました。東京ではいつも妹の家にお世話になるのです。今では娘も居候しているのですが、それからというもの妹が真っ先に「お宅の娘さ～～」という愚痴をこぼしてきます。「あ～～ごめん、ごめん、親がなってないからさ～迷惑かけてるねえ」とお土産で懐柔します。妹は私と違ってしっかりものの働き者。粹にはまらない姪っ子を預かって、そのバランスをとるのに苦労していた感があります。しかし、元来なんとかなるさ系の母の血を姉妹で受け継いでいるので、愚痴は言っても最後には、まっ、いいか。ということで、一緒にごはんを食べて落ち着くのです。おいしいごはんを作る妹は偉いなあ～（よいしょ）。

滞在中、「こんなみかんを見つけたのよ～」と妹が、買い物から帰ってきて見せてくれたのが「甘平」というみかん。直径10cm以上はありそうな平たいみかんで、妹は2つ買ってきたのです。はじめて見るみかんにワクワクしつつ、暗黙の了解で明日の朝食べようね、と棚の上のデコポンのよこに置いたのです。

翌日のその朝は月曜日で、私も札幌に帰る日。妹は出社の準備、娘は早朝6時に家を出て学校へ。起きて珈琲を入れていると、妹が「あれ～～みかんがない！

昨日買ったばかりのみかん！」。見てみると2個あったはずの甘平が1個しかないのです。妹の頭の中では、大きなみかんを半分ずつ妹と妹の娘、私と私の娘の4人で、半分ずつ食べるといいなと考えていたに違いない。みかんを1個持って行っちゃった犯人はそう、6時に家を出た我が娘。「ああ～～やられた～～」と妹。食い意地の張った家系のよくある話？なのですが、ほんと昔から誰がどれだけ食べたとか、私はまだ食べてないとか3姉妹でどれだけ食べ物を争ったか。妹の嘆き様を見て、それを思い出して大笑いしてしまった。「娘だね。ごめんよ～～わはははは」「ほんとさ～お宅の娘。こっちのデコポンもっていけばいいのに」「美味しそうなもののほうに鼻が効くんだよ。ごめんごめん。わはははは」こりゃ、笑うしかない。いやほんとこの年になっても姉妹、いや、叔母と姪がみかんで争うとは。もう～と牛と化したまま妹は「またね」といって出社していきました。

妹が電車に乗って落ち着いたのか「さむいから温かくして気をつけて帰ってね」というメールが来た。「ありがとう。お世話になったね。今度みかん送ってあげるね」と返信したら「いいよ。お宅の娘に大分なれてきたから」というメール。なんだかんだ言っても優しい。問題の甘平は結局食べずに帰ってきた私。ああ～札幌にも売っているのかなあ。やっぱりどこまで食いしん坊なのです。

いろいろなみかん

東京から帰ってきてすぐ、愛媛のみかんとかいた段ボール箱が届いた。あれ？どこから？と名前を見たら数年前まで札幌に住んでいた友人からでした。転勤で札幌にいた間、私たちの食の団体に参加してきて、そのユニークな存在でみんなからとても愛された人物。おめでたいことに、ずっと年下のきれいなお嫁さんを見つけ、再び転勤していったのです。

箱をあけると予想を裏切り、いろんな品種のみかんが少しずつ入っているではないか。これはすごい、と大喜びでみかんを箱からだしてみました。デコポン、

河内晩柑^{かわちばんかん}、レモン、葉付きのシークワサー、レモンイエローの小さな姫小春、はれひめ、ポンカン、せとみ、まりひめ、紅まどんな、そしてあの大きくて平べったい形の甘平が4つも入っています。食べ損ねたなあと思ってたあの「甘平」がやってきたんです。夫と2人暮らしの我が家では一人2個ずつあたります。妹のところの甘平を食べずに帰ってきてよかったと胸を撫で下ろし、さっそく食べてみました。大きいのに皮が薄くてむきやすい。中の皮も薄くてジューシーなのにさらっとした食べ口で、さわやかなのにコクのある甘さ。おいしい～！他にも食べた事のないみかんがたくさん。こんなに味わいが豊かで、おいしさもいろいろ、それぞれにしっかりと個性がある。一度にいろんな品種のみかんを食べ比べる機会はなかなかないので、とても楽しい贈り物です。送ってくれた友人に感謝。食いしん坊の友達はやはり食いしん坊。よくわかっていらっしゃる。

みかんを食べながら、その友人の披露宴を思い出しました。二人のための小さな手作りのお祝いの会。そうか、もしかしたら結婚記念日だったかな？昨年、東京で久しぶりにこの友人と奥さんにあっただけど、相変わらず仲良しな二人。みかんを食べながら、いろんなことを思い出し、幸せのお裾分けいただいた気分になりました。

みかんと魚介

みかんをそのまま食べるだけではなく、料理にも使ってみました。河内晩柑と姫小春を房に分け、たこやホタテを適当に切り、オリーブオイル、塩、こしょうのみであえました。思った通り美味しい事この上無し。甘みもさることながらほんのりした酸味が心地よい。少し冷やして、食べるといっそうおいしい。白ワインがぐいぐい進みます。温州みかんばかりだった昔に比べると、本当にいろんなみかんを食べられるようになって、いろんな食べ方もできるようになりました。みかんへの愛情が一段とアップしてしまったこの冬です。

